# 検診発見がん1／3が内視鏡治療
## ―患者さんのQOLに貢献―

**鳥取県成人病検診管理指導協議会胃がん部会**
**鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会**

■ **日　時**　平成21年２月７日（土）　午後２時30分～午後４時

■ **場　所**　倉吉交流プラザ　倉吉市駄経寺町

■ **出席者**（23人）　岡本健対協会長、池口部会長、吉中専門委員長
秋藤・伊藤・大城・大津・岡田・清水・謝花・辻谷・西土井・
野口・藤井・前田・三浦・三宅・宮﨑・八島・山口各委員
県健康政策課：澤田副主幹
健対協事務局：岩垣係長、田中主事

---


**【概要】**

平成19年度内視鏡検診実施率が50％を上回った。がん発見率はX線検診の0.17％に対し、内視鏡検診は0.55％である。検診発見がん患者確定調査の結果、早期癌率75.8％で、切除例のうち内視鏡切除が全体の１／３を占め、２cm以下の小さいものが多く見つかっている。


### 挨拶（要旨）

〈池口部会長〉

平素、胃がん検診事業にご協力頂き、有難うございます。

平成19年度胃がん検診最終実績報告が提出され、新しいデータが出てきますのでご協議の程よろしくお願いします。

〈吉中委員長〉

平成19年度胃がん検診最終実績、検診発見がん患者確定調査結果を踏まえて協議して頂き、より精度の高い検診事業を目指したいと思います。

### 報告事項

**１．平成19年度胃がん検診実績最終報告並びに20年度実績見込み及び21年度計画について**

**〈県健康政策課調べ〉：**

澤田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

〔平成19年度実績最終報告〕

対象者数171,530人のうち、受診者数はX線検査20,507人、内視鏡検査は23,765人で合計44,272人、受診率は25.8％で、平成18年度より0.2ポイント減少した。内視鏡検査の実施割合が初めて50％を上回った。

X線検査の要精検者数は1,689人で、要精検率8.2％。精検受診者数1,337人、精検受診率は79.2％であった。集団検診の要精検率6.6％、東部4.4％と低かった。医療機関検診は11.9％で、依然として中部が26.7％と高い。

内視鏡検査の組織診実施者数2,445人で、組織診実施率10.3％で、市町村で格差がある。特に鳥取市は14.7％と高いが、秋藤委員の方で個別に指導等を行っているとのことだった。

検査の結果、胃がん166人（X線検査35人、内視鏡検査131人）、がん発見率（がん／受診者数）は、X線検査0.17％に対し、内視鏡検査0.55％で

約３倍も高かった。胃がん疑い37人（X線検査５人、内視鏡検査32人）であった。

陽性反応適中度（がん／精検受診率）はX線検査2.6％である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ5.4％であった。

〔平成20年度実績見込み及び平成21年度計画〕

平成20年度実績見込みは、対象者数183,004人に対し、受診者数は44,520人で前年度並であるが、受診率は下がる見込みである。その原因としては、対象者数が平成19年度より約12,000人増加見込みとなっており、倉吉市、湯梨浜町、大山町については国が示している対象者の算定方式を取り入れられた結果、対象者数が大幅に増加となっている。

三朝町は平成19年度より対象者数が約400人増え、受診者数も約２倍増の1,100人が見込まれて、受診率67.9％と高い。受診者数向上の取り組みがどのようになされているか県健康政策課より問い合わせることとなった。

また、平成21年度実施計画は、対象者数182,954人に対し、受診者数45,820人を予定している。若桜町、三朝町では平成21年度より内視鏡検査を導入予定となっている。

がん検診受診率50％以上の目標達成には、対象者の把握が今後更に重要となってくる。

また、職域検診の実績も把握することが重要であると考えているが、収集が難しい問題がある。

**〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員**

〔住民検診〕

平成19年度の受診者数14,051人、要精検者930人、要精検率6.6％（東部4.4％、中部8.2％、西部7.5％）で、判定４と５の割合は4.8％（東部12.6％、中部2.1％、西部2.6％）であった。ここ近年においては、各地区の要精検率の格差はあまりなかったが、平成19年度は東部が非常に低率となった。低率となったはっきりした原因は分からないが、写真が非常によくなったこと、また、異形成ポリープ、過形成ポリープとはっきり分かっているものについては判定２、３としなくなったと秋藤委員からの回答だった。

要精検者数に対してのがん発見率は1.6％（東部1.3％、中部1.4％、西部2.2％）であった。

精検結果未報告は12.5％で、依然として改善されていない。

初回受診者は1,504人で、要精検者は146人で、要精検率は9.7％であった。判定４と５の割合は6.8％であった。

〔一般事業所検診〕

受診者9,114人のうち、要精検者は664人で、要精検率は7.3％で、判定４と５の割合は7.7％で、がん発見率は1.4％であった。精検結果未報告は43.8％と依然として高い。

**２．平成19年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：秋藤委員**

平成19年度に発見された胃がん及び胃がん疑い203例について確定調査を行った結果、確定胃がんは161例（一次検査がX線検査：車検診17例、施設検診17例、一次検査が内視鏡検査：127例）であった。発見癌率は0.364％であった。

調査結果は以下のとおりである。

（１）早期癌は122例、進行癌は39例であった。早期癌率は75.8％で、東部79.5％、中部88.9％、西部69.6％であった。

（２）切除例は149例で、そのうち内視鏡切除が53例で全体の１／３を占め、増えている。
非切除例が12例で、手術拒否７例、手術不能５例であった。高齢者の症例が最近増えてきていることが影響していると思われる。

（３）性・年齢別では、男性104例、女性57例であった。男女とも70～79歳から癌が多く見つかっている。また、90歳代の切除例が３例あった。40歳代、50歳代の女性からがんが３例ずつ見つかっており、若年層の受診勧奨が必要と思われる。

（4）早期癌では「Ⅱc」が50%で大半を占めている。進行癌では「2」、「3」で56.4%を占めている。例年どおりの結果であった。
（5）切除例の深達度では「t1」が117例で、そのうちmが77例であった。
（6）切除例の大きさは2cm以内が40.7%であった。車検診では38.5%、施設検診では17.6%、内視鏡検査では44.3%で、小さいものが多く見つかっている。
（7）早期癌の占拠部位は、内視鏡検査ではX線検査では見つかりにくい前壁が多く発見されている。
（8）肉眼での進行度stageⅠaはX線検査22例で65.6%、内視鏡検査99例で83.9%だった。
（9）前年度受診歴を有する進行癌は、東部9件、西部8件であった。前年度の検診結果については現在調査中である。

内視鏡検査で大きさ、深達度、部位の記載がないものが多かった。

**3．国からの胃内視鏡検診の有効性に関する検討について：吉中委員**

平成20年度がん研究助成金「がん検診の評価のあり方に関する研究班」において、山形大学大学院　深尾　彰先生を中心とした「胃内視鏡検診の有効性評価に関する研究」として、米子市の症例対照研究がされている。4回開催された班会議報告によると、米子市の検診においては検診未受診者と内視鏡検査受診者の有意差は出ている。内視鏡検査とX線検診検査との交互受診例がかなりあるので、有意差の解析については検討が必要であるとのことだった。

最終的にはいい成果が出てくると思われる。

**4．胃がん検診精密検査医療機関の追加登録について**

胃がん検診精密検査医療機関として、1医療機関より追加登録の申請があり、協議の結果、承認された。

胃がん検診精密検査医療機関の登録基準の見直しについて、今後検討していくこととなった。

**協議事項**

**1．平成21年度におけるがん検診受診率向上に向けた県の取り組みについて**

鳥取県がん対策推進計画の受診率目標50%に対し、平成19年度受診率27%で、職場や家庭内で多忙な40～50歳の検診受診率が低い傾向にある。そのため、県健康政策課においては、平成21年度事業として「がん検診受診率向上プロジェクト2009～新規受診者を掘り起こせ！～」として、休日がん検診支援事業や県民フォーラムなどを計画している。

---

# 胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

**日　時**　平成21年2月7日（土）
午後4時～午後6時

**場　所**　倉吉交流プラザ「視聴覚ホール」
倉吉市駄経寺町

**出席者**　150名
（医師：139名、看護師・保健師：5名、検査技師・その他関係者：6名）

吉中正人先生の司会により進行。

**講　演**

鳥取県立厚生病院院長　前田迪郎先生の座長により、癌研究会有明病院副院長　山口俊晴先生による「胃癌の標準治療とは？―胃癌治療ガイドラインの最近の動向から―」の講演があった。

**症例提示**

吉中正人先生の進行により、３地区より症例を報告して頂いた。

１）東部症例（１例）：

鳥取生協病院　福庭暢彦先生

２）中部症例（１例）：

鳥取県立厚生病院　藤瀬　幸先生

３）中部症例（１例）：

吉中胃腸科医院　吉中正人先生

３）西部症例（１例）：

山陰労災病院　神戸貴雅先生

# 頚部がん細胞診（ベセスダシステム）の導入に向けて

**鳥取県成人病検診管理指導協議会子宮がん部会**
**鳥取県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会**

■ **日　時**　平成21年２月８日（日）　午後12時10分～午後１時50分

■ **場　所**　鳥取県西部医師会館　米子市久米町

■ **出席者**（23人）　紀川部会長、井庭専門委員長
板持・伊藤・井奥・井本・梅澤・澤住・清水・冨山・中曽・
能勢・東口・藤井・皆川・吉田・吉中各委員
県健康政策課：川本保健師
県子育て支援総室：大嶋主事
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

**【概要】**

平成19年度、頚部がんは５人、異形成は35人だった。18年度に比べがんは11人減少した。体部がんは発見されず、子宮内膜増殖症は７人だった。平成20年度は特定健診が開始されたことにより、制度の周知不足等から受診者数は若干減少する見込みである。平成21年度は休日婦人科健診を希望する市町村が多く、受診率向上が見込まれている。

子宮頚部がん検診で実施されている細胞診結果について、新分類のベセスダシステムの導入へ向け、平成22年４月実施を目指し様式等を検討していくこととなった。

**挨拶（要旨）**

〈紀川部会長〉

今年４月から産婦人科医会、細胞診学会とも子宮頚癌スクリーニングの報告様式が「ベセスダシステム」へ変わる。それに伴い、本県の子宮がん検診においても早急に報告様式を変更する必要があり、細胞診を行う技師の方への周知徹底についても検討していきたい。さらに、妊婦健診の細胞診の一元化についても検討していきたい。

〈井庭委員長〉

子宮がん検診の受診率はなかなか向上しておらず、一つの要因として従来の検診方法を変える必要があるのではないかと考えている。乳がん検診にマンモグラフィー検査が導入されたように、子